

校外学習の学びを次のステップに



先日家にポインセチアの植木鉢を飾りました。ポインセチアは、12月が近づくと花屋の店先に並ぶことから「クリスマスフラワー」とも呼ばれています。緑色の葉の上に真っ赤な葉が重なる冬を代表する観葉植物で、毎年楽しく鑑賞しています。

今年度は11月までに全学年の校外学習が実施できました。今はいつでもパソコンやスマートフォン等で写真や動画を見ることができそうですが、教室の外で本物に触れることは、子どもたちの学びを豊かなものにします。また、校外におけるクラスやグループでの行動も、集団生活の在り方や公衆道徳についての体験を積むことができます。当日遠足に行く学年を見送りした時に見たわくわくしている笑顔や、引率している時に見た子どもたちの真剣な生き生きした表情から、改めて実際に見たり聞いたりする体験活動の大切さを感じました。

12月となり、まとめの時期となりました。どの学年も校外学習で見聞したことを絵に表したり、作文を書いたり、パソコンを使ってレポートを作成したりして学びを深めています。コロナ禍でできなかった活動を少しずつ教育活動の中に戻し、今後も多様で豊かな学びを大切にしたいと思います。

5年生 愛川ふれあいの村 宿泊移動教室を終えて

10月10日から一泊二日の日程で、愛川ふれあいの村に出かけました。5年生にとって泊を伴う学習は初めてのことで、学校としても3年ぶりの実施となりました。子どもたちが考えた「My can peace」というスローガンのもと、団体行動、団結力、力を合わせることを合言葉に、グループ活動の意味を学ぶことができました。

初日は、愛川繊維会館で藍染を体験したり、グループで力を合わせてアドベンチャーラリーに挑戦したり、夜には星空のもとキャンプファイヤーで盛り上がりたりと、子どもたちは互いに声を掛け合い、協力して活動に取り組みました。夜遅くまで話し声が聞こえる部屋の中からは、今、友だちとしか共有できない大切な時間を過ごしているのだなと思い「早く寝なさい」という言葉をためらいました。

仲間との体験活動を通して人との関わり方を学ぶことは、学校の大切な役割だと思います。時にうまくいかないことがあっても、安心して試行錯誤を繰り返せる場でありたいと感じました。

教頭 中山 佳予子



6年生 日光 修学旅行を終えて

11月14、15日に6年生は、栃木県の日光へ修学旅行に行ってきました。

1日目の東照宮辺りはまだ紅葉が鮮やかで旅行者も多い中、グループ活動では時間やマナーを守り、互いが協力しながら集団行動ができたことは素晴らしいと思います。事前学習の充実も含め、歴史や文化に直接触れ、世界遺産に感動し、しっかりと学んだようすが伺えました。また、落差97Mの華厳の滝からは、自然の持つエネルギーに圧倒されていました。友だちと過ごしたホテルでの時間も忘れられない思い出となったことでしょう。中央林間小学校では「いつも『何のため』を考えて自ら行動する」という目標があります。旅行中には、行程表やしおりには書かれていない様々な場面での細かい指示や変更が出てきます。そういった時にも慌てることなく「何のため」にどうするのが良いのか一人ひとりが常に考え、行動することができていました。実行委員や係の役割を果たしている姿からも、最上級生となった頼もしさを感じました。この学びが自信となり、残りの小学校生活や卒業後の生き方の力になりますようにと願っています。

校長 吉田 美佳

